

小中9年間の言語材料を活用した表現力を高める指導の工夫

～なりきり名人を通して～

那覇市立松城中学校教諭 棚原 歩

I テーマ設定の理由

中学校学習指導要領では、外国語の目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」と示しており、特に実践的コミュニケーション能力の育成を重視している。

本市においては平成15年度より文部科学省研究開発学校の指定を受け、市内全小中学校53校で小中連携による英語教育のあり方の研究を行っている。小学校では、「聞く・話す」の音声重視の指導方法により、児童は楽しみながら英語に触れ、体験的な活動を中心とした英語活動に取り組んでいる。平成15年度～平成17年度的那覇市小学校英語教育に関するアンケートでは、93%の児童が「英語が楽しい」「もっと聞けるようになりたい」「話せるようになりたい」と答えており、英語活動の有効性を示している。中学校においては、小中相互の授業参観や中学1年生4月～7月(接続期)における、音声を重視した指導方法の工夫を図りながら、基礎・基本事項の定着と実践的コミュニケーション能力の育成を目指した実践を行っている。

本校においても、接続期における指導を音声重視で行い、言語活動を多く取り入れる授業展開をすることで、小学校英語と中学校英語をスムーズにつなげることができた。また、生徒の中学校英語への興味・関心を高めるために、コミュニケーションの場の工夫として「なりきり名人」という言語活動を考案した。これは、英文を取り除いた教科書の挿絵を見て、絵の人物等になりきって対話をふくらませ、英語のスキットを作る言語活動である。生徒は、楽しみながらこの活動に取り組んでいるが、なりきり名人の活動を進めていく中で、生徒の表現内容にあまり変化が見られなくなり似たような表現のくり返しが増えてきた。単に自由に表現するように指示しても、初歩の段階では、表現内容をそれ以上広げることが難しい面や、小学校で触れてきた言語材料を一層活かした活動などの課題がみえてきた。その要因として、教科書の初期の単元における題材は小学校で慣れ親しんだものが多く、生徒にとって新しい語彙・表現の量が少ないことがあげられる。表現力を伸ばすためには、教科書の単元で扱う言語材料のみにとらわれず、小中9年間で捉えた指導内容を吟味し指導方法を変えていく必要がある。

そこで、小中連携カリキュラムの作成及び活用をすることが効果的ではないかと考えた。そして、カリキュラムを活用したなりきり名人の指導の工夫を図ることで、基本的な言語材料を習得し、表現の幅が広がり生徒の表現力も高まるであろうと考え、本研究テーマを設定した。

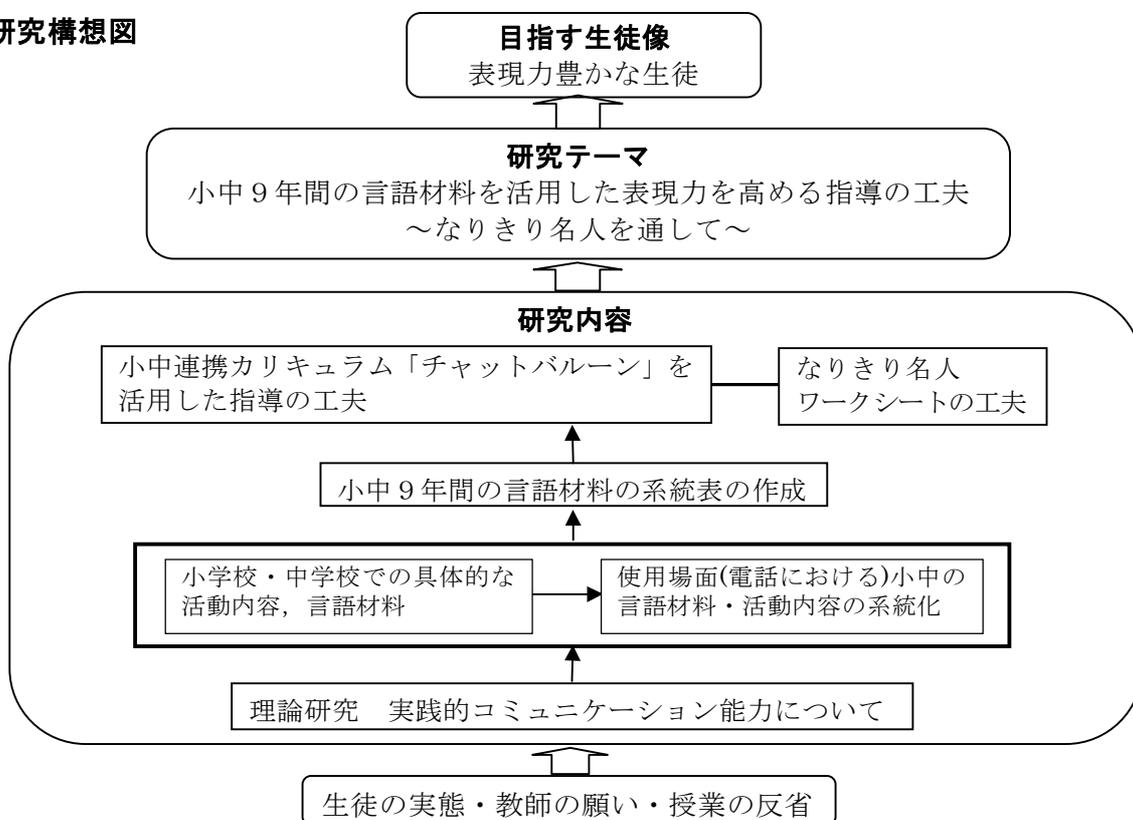
II 研究目標

小中連携カリキュラムの作成及び活用を通して、なりきり名人を取り入れた指導方法を工夫・改善し表現力を高める。

Ⅲ 研究方針

- 1 実践的コミュニケーション能力に関する理論研究
- 2 小中連携カリキュラム「チャットバルーン」の作成
- 3 小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を活用したなりきり名人の指導の工夫

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

1 実践的コミュニケーション能力について

(1) 実践的コミュニケーション能力の育成

中学校学習指導要領外国語編によると、実践的コミュニケーション能力とは、「単に外国語の文法法則や語彙などについての知識を持っているというだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力」と記されている。中学校では、英語の学習を通して、日常的な会話や簡単な情報の交換などができるような実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことをねらいとしている。そのため、実際に英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする言語活動を効果的に行うことが重要である。また、言語活動の指導事項では、学習の深まりを目指して学年の枠をはずし、必要な内容を繰り返して指導するなど、教師の創意工夫が可能となった。言語活動を充実させるために、「言語の使用場面」を取り入れたコミュニケーション活動や、生徒が自分で言語材料を選んだり、メッセージをつくり発信したりできるような相互的な活動を、多く取り入れることが大切になってくる。

本研究では、実践的コミュニケーション能力を育成するために、学習指導要領に示された「言語使用の場面の特有の表現がよく使われる場面」の中から「電話の応答」を取り上げ、実際に使えるようになるための言語活動を組み込んだ授業づくりをしていくこととする。

(2) 自己表現力の育成

実践的コミュニケーション能力を育成するには、生徒が自ら表現できる力を身につけることや、授業において身近で具体的な場面設定を行い学習したことを「実際に使うこと」を経験させる言語活動の工夫が求められる。そこで、自己表現活動を取り入れた授業構築が求められる。自己表現力の要素としては、『自己表現活動』を取り入れた英語授業」(田中武夫・田中知聡著)によると、生徒の表現意欲を高める言語活動に変える工夫として、必然性、具体性、自己関連性、自由度の4つを述べている。表1はそれをまとめたものである。

本研究では、この4つのポイントをなりきり名人の中に取り入れることで自己表現力を高めていきたい。

表1 表現意欲を高める言語活動の工夫

①必然性	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自然に表現してみたいと思うような場面・状況をつくることや、自ら英語で表現したいと生徒に思わせる状況をつくる。 誰かにメッセージを伝えるという目的のために、自然な形で英語を使うよう、生徒をうまく動機づける。 コミュニケーションの目的を生徒にはっきり意識させる。
②具体性	<ul style="list-style-type: none"> 教師が今から行う活動を生徒の立場に立って、活動の説明や導入(実物を使っての活動や言語活動や指示)を具体的にを行う。
③自己関連性	<ul style="list-style-type: none"> 自己関連性の高いトピックを日頃の授業から積極的に取り入れる。 例文や活動に登場する地名や人物を、生徒が身近に感じるものにする。
④自由度	<ul style="list-style-type: none"> 答えが1つではなく、生徒自身の意志や判断によって主体的に表現させる部分を活動に取り入れる。

2 小中連携カリキュラムを活用したなりきり名人の指導の工夫

(1) なりきり名人について

①定義

なりきり名人は、生徒の発想を活かし自由に表現する手法である。「聞く・話す」活動や「書く」活動において、小学校で学んだことも含めて既習の英語表現を駆使し、各自のアイデアを加えながら、表現の幅を広げることをねらいとしている。

②なりきり名人の種類

なりきり名人の活動において、題材や生徒の学習段階に対応できるように、2つのパターン(図1・2)を考案した。

パターンA	パターンB
<p>本文を除いた教科書の挿絵を見て、その挿絵の登場人物になりきって自由に(本文にとらわれず)表現する。</p>	<p>与えられたタスク(場面と状況)を、ペアで考えながら、ある人物になりきって自由に表現する。</p>
<p>図1 なりきり名人パターンA</p>	<p>図2 なりきり名人パターンB</p>

③なりきり名人の指導

なりきり名人パターンAに関しては、自由に表現するので生徒に活動をゆだねている。パターンBに関しては、タスクを与えて行うことから教師の意図的な支援が必要となってくる。今回はパターンBを取り上げる。図3は、なりきり名人の指導の流れをまとめたものである。

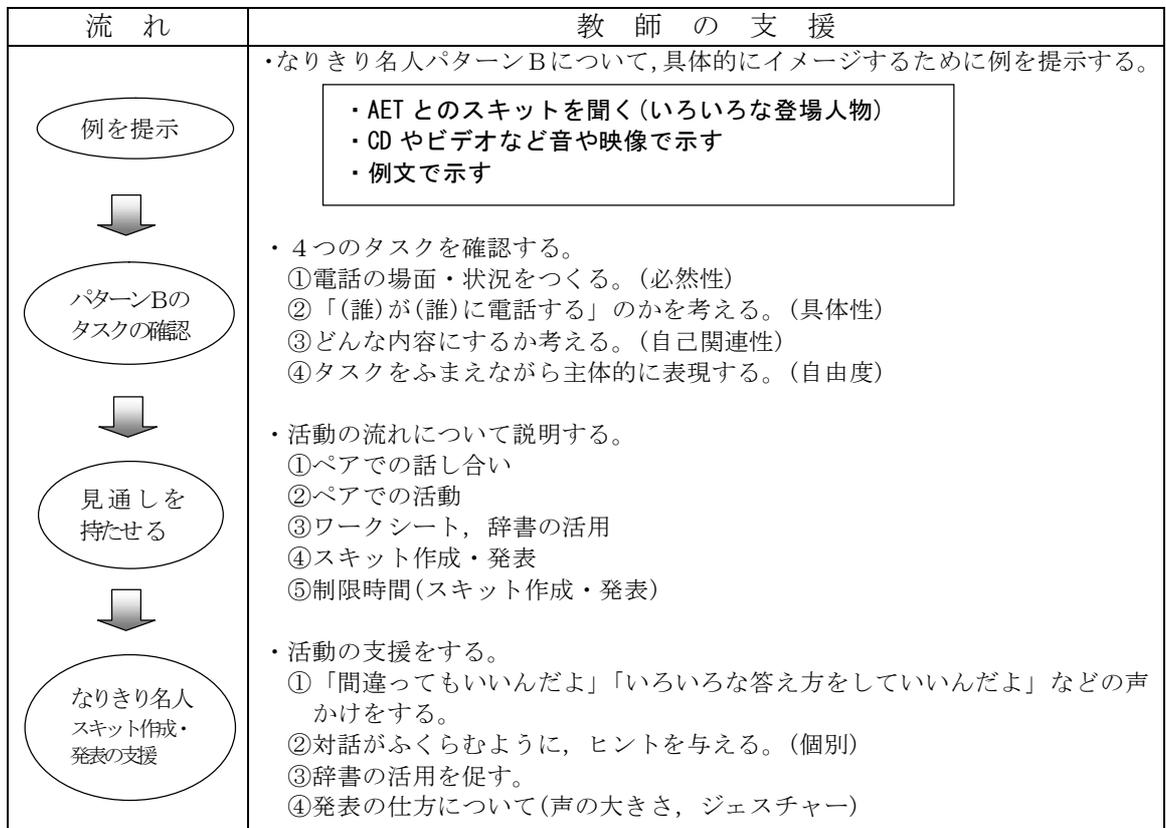


図3 なりきり名人の指導の流れ

(2) 小中連携カリキュラム(電話編)を活用したなりきり名人の指導の工夫

なりきり名人のスキット内容を深めるために、小中連携カリキュラム(図6参照)と合わせて活動することとする(図4)。このカリキュラムに関しては、対話練習で基本表現を身につけ、なりきり名人パターンBを活用し、タスクを活かしたスキット作成を行う。また、本題材は「電話」であることから、対話活動を考慮しペアで取り組む。このように、小中連携カリキュラムとなりきり名人を組み合わせた言語活動をすることで、生徒は場面における表現が身近となり、「聞く・話す」ことから「書くこと」へと、つながりやすくなり生徒の「もっと表現したい」「伝えたい」という意欲が高まるであろうと考える。

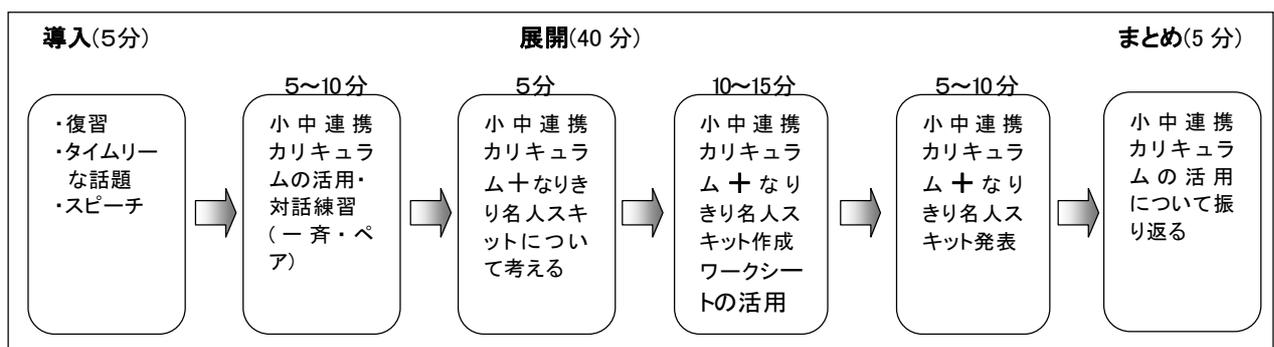


図4 小中連携カリキュラムを活用した授業における流れ

3 小中連携カリキュラム(電話編)の作成

(1) 小中9年間の言語材料を示した系統表

生徒の表現力を高めるには、語彙力を増やすことが不可欠である。生徒が小学校で慣れ親しんだ表現や小中9年間の言語材料を把握することは、教師にとって大切であると考え。そこで、その手だてとして9年間の言語材料の系統表(図5)を作成する。これを活用することで指導方法の工夫を図りたい。今回は言語の使用場面を「電話の応答」とし、9年間における到達目標をたて、小1～中3までの各段階における指導内容を左側に、具体的な言語材料を右側に配列する。

カリキュラムの言語材料に関しては、小学校を、平成16年度那覇市小学校英語科指導計画と平成17年度那覇市小学校英語科学習指導事例集から、中学校を、教科書(TOTAL ENGLISH 1～3, NEW HORIZON 2～3)から精選する。この系統表を基に、生徒用の小中連携カリキュラムを作成し、言語活動に活かしていきたい。

場 面		電話での応答	
到達 目標	表現	状況に応じて、語句を選択し伝えたい内容を話したり書いたりできる。	
	理解	内容を正しく理解することができる。	
↑ 中学校の表現	中学1年～3年	(中学校)	Hello. This is～. Can(May) I speak to～? / Speaking. Just a minute, please. (Hold on, please.) I'm sorry, she (he) is out. I'll call back later (again). Sorry, you have the wrong number. Can I leave a message? Would you like to leave a message? Can I take a message? Could you tell him to～? Shall I tell him to call you? May I have your name, please? Is Kent there, please? 関連表現 What's up? Let's ～ ! (Why don't you ～?) Okay. See you later. / Sorry, I can't. What are you doing? / I'm ～ing.
		+	
		(小学校)	
小学校の表現	小6		
	小5	(小学校)	What's your phone number? It's ～. Hello. This is ～. May I speak to～? Hi. This is～.
	小4		
	小3		
	小2		
	小1	数字が言える	0～9

図5 小中9年間の言語材料を示した系統表

(2) 小中連携カリキュラム「チャットバルーン」

表現力を高めるには、生徒にとっても小中の学習内容の全体像を捉えることは大切と考える。そこで、9年間の言語材料を示した系統表(図5)を基に、小中連携カリキュラムを作成することとする。図6のチャットバルーンは、電話の場面における小中の言語材料を一目瞭然で捉えることができる小中連携カリキュラムである。これは、バルーン(風船)が、電話の状況ごとに配置されており、各バルーンはすべて対話形式となっている。

チャットバルーンは、「③自分の名前を言う、④相手呼び出す」を基本に、「⑤相手に待ってもらおうように伝える」「⑥本人不在」「⑦伝言を残す」「⑧後でかけ直す」「⑨間違い電話」「⑩誘う・誘いにのったり、断ったりする」などの表現を各自が自由に組み合わせ、さらにオリジナル性を加えられるようにしてあるため、生徒の学習ペースにも対応できるようになっている。また、教師にとっても個に応じた支援がしやすくなる。

このように、チャットバルーンとなりきり名人を組み合わせた活動を通して、意欲を引き出し、話したり書いたりする表現力が高まるであろうと考える。



図6 小中連携カリキュラム「チャットバルーン」

VI 授業実践

1 題材名 電話を楽しもう

2 題材の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
言語活動への取り組み ①チャットバルーンを活用して、表現を使おうとしている。 ②ペアで協力し、電話で対話しようとしている。	適切な発話 ①質問や誘いなどに応じて適切に回答することができる。(チャットバルーンの活用) ②場面に応じて、語句を選択し伝えたい内容を書くことができる。	正確な聞き取り ①話し手に聞き返すなどして正しく理解することができる。 適切な聞き取り ②内容を正しく理解することができる。	言語についての知識 ①場面や状況に応じた表現を知っている。 ②電話の特有の表現を理解することができる。

3 指導計画

	目 標	言語活動				評価規準との関連				評価方法
		聞く	話す	読む	書く	関意	表現	理解	知識	
第1時	小学校の表現を想起する。チャットバルーンの使い方を知る。	AETとJTEの対話を聞く。Q-A ☆インタビューゲーム Who's calling game	マッチングでゲーム			①				インタビューゲーム
第2時	中学校で学ぶ新しい表現を理解し話すことができる。	AETとJTEの対話を聞く。Q-A ☆チャットバルーンの表現を練習する。	☆マッチングでゲーム	ワードオーダー		②		②		チャットバルーン マッチングでゲーム
第3時	チャットバルーンを活用して、いろいろな表現を組み合わせ対話する。	AETとJTEの対話を聞く。Q-A チャットバルーンの表現を練習する。 ☆なりきり名人(スキットを考え発表する)	マッチングでゲーム	☆ワードオーダー		①		②		チャットバルーン チャレンジシート ワードオーダー
第4時	電話の表現を通してコミュニケーションを楽しむ。	☆AETとJTEの対話を聞く。Q-A チャットバルーンの表現を練習する。	並べかえゲーム	ワードオーダー ☆なりきり名人(スキットを考えて書く)		①		①		Q-A ワークシート
第5時	既習の表現を用いて、絵の人物になりきり、スキットを考えて書く。考えたスキットをペアで発表する。	AETとJTEの対話を聞く。Q-A チャットバルーンの表現を練習する。 なりきり名人の発表	☆並べかえゲーム	☆なりきり名人(スキットを考えて書く)				①	①	ワークシート
第6時 本時	既習の表現を用いて、絵の人物になりきり、スキットを考えて書く。考えたスキットをペアで発表する。	AETとJTEの対話を聞く。Q-A チャットバルーンの表現を練習する。 なりきり名人の発表		ワードオーダー ☆なりきり名人(スキットを考えて書く)				②	②	ワークシート

4 本時の指導(6/6 時限目)

(1) 本時の指導目標

- ①電話の表現を用いて、英語によるコミュニケーションを楽しむ。
- ②小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を活用し、既習表現を組み合わせながら、ある人物になりきって対話をふくらませる。
- ③ペアで協力し、スキットを作ることができる。

(2) 授業仮説

小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を活用し、なりきり名人を工夫することで、表現力を高めることができるであろう。

(3) 本時の展開

活動の流れ	生徒の活動	教師の支援		留意点 評価(☆)
		JTE's	AET's	
Greeting (2分)	挨拶をする。 ・AETの質問に答える。	・挨拶をする。 ・これまでに慣れ親しんだ英語表現を用いて質問する。 ・ピクチャーカードを使ってインプットする。		楽しい雰囲気を作る。
Warm-up Review (8分)	既習表現を練習する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">Let's ~.</div>			ピクチャーカード
	ワードオーダーゲームをする。 ・AETの言う表現を聞いてカードを並べかえ文章を作る。 ・希望者が1文ずつ発表する。 現在進行形の形を理解する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">am, is, are + ~ing 「~している」 What are you doing? / I'm ~ing. / She(He) is ~ing.</div>	・希望者を指名し解答する。 ・現在進行形の形を説明し確認する。	・ワードオーダーを1文ずつ言う。 ・必要に応じて、発音のモデルを示す。	ワードオーダーゲームセット センテンスボード
Main Activities (12分)	AETとJTEの対話を聞く。 ・ドラえもんとのびた君の電話でのやりとりを聞く。 ・質問を聞いて答える。	・電話に関する表現を用いて対話する。 ・対話の内容に関する簡単な質問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">誰が誰と、どこに、いつ、何をした、どんなこと など</div>		チャットバルーン ☆知識②
Activities 1	「チャットバルーン」を使って練習する。	・机間指導しながら、困っている生徒への支援を行う。		
Activities 2 (20分)	・前回出てきた表現の中からオリジナル性のあるものを紹介し振り返る。 ・教師の範読後にペアで練習する。全員→ペア 	・対話がふくらむように、組み合わせのヒントを与える。 ・季節にあった話題や関連のある事柄について補足する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">登場人物について：芸能人、スポーツ選手、キャラクターなど どんな話・状況：クリスマス、お正月、誕生日、部活など</div>		
	「なりきり名人」の活動をする。 ・タスクを書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">・誰が誰に電話をするか。 ・どんな話をするのか。</div> ・ペアでスキットを考える。 ・スキットの自分のパートを書く。 発表タイム ・考えたスキットを発表する。 ・内容を聞き取るように集中して聞く。	・必要に応じて補足説明する。 ・机間指導しながら、スキット作成の遅れている生徒への支援を行う。 ・既習表現を引き出させ表現をふくらませる。 ・書けないペアを励ましヒントを与える。 ・辞書の活用を促す。 ・発表者の支援をする ・どういう内容だったかを質問する。	・活動の説明をする。	☆表現② ワークシート 辞書
Wrap-up Consolidation (3分)	本時を振り返る。 ・チャレンジシート(到達度チェック)へ記入する。 挨拶をする。	・今日の活動を振り返る。	・挨拶をする。	チャレンジシート

Ⅶ 結果と考察

検証

小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を活用し、なりきり名人を工夫することで、表現力を高めることができるであろう。

【手だて1】小中連携カリキュラム「チャットバルーン」について

小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を活用したチャレンジシート(到達度チェック)の結果と生徒の感想から、チャットバルーンについて検証する。

【結果】

表2は、生徒が授業で毎回10分程度、チャットバルーンを活用した第1時間目と第5時間目における到達できた表現項目と生徒の割合を示したものである。太枠は、中1の表現内容を示しており到達目標にもなる。各項目で85%～93%の生徒が到達している。また、中2・3の表現内容に関しては、「伝言を残す」以外の項目において、64%以上の表現が使えるようになった。

図7は、チャットバルーンを活用した対話練習を生徒がどのように評価しているか、意識調査を実施した結果である。約8割近い生徒が「いろんな表現パターンがあったからよかった」「小学校の時のものができて得した気分」などの利点をあげている。

【考察】

従来は、中1における電話の題材では、「誘う」のみの表現を扱うが、チャットバルーンを活用することで「間違い電話・相手に待ってもらう・本人不在・伝言を残す」など多くの未習表現が使えるようになっていくことがわかる。生徒にとって、従来の教科書の単元にそった言語材料を扱うといった言語活動とは異なり、9年間の言語材料を扱うチャットバルーンの活用で、意欲が高まり、表現内容が広がった。また、小学校で扱う表現では93%以上の生徒が到達している。これは、カリキュラムに小学校の表現を入れることで、理解の遅い生徒もできるところから取り組み、活動したものと思われる。また、図7の「小学校の復習もできて、中学校の予習みたいにできてよかった」などの生徒の感想から、カリキュラムの有用性を実感していることが伺える。

表2 チャットバルーンの活用で到達できた表現項目と生徒の割合(中1)

学年の段階	チャットバルーンの表現項目	1回目	5回目
中3	伝言を残すとき	—	13.1%
中3	本人不在のとき	—	64.6%
中2	間違い電話のとき	—	71.1%
中2	相手に待ってもらうよう伝えるとき	3.0%	87.8%
中1	誘う 誘いにのったり、断ったりするとき	—	85.8%
小5 中1	相手呼び出すとき	68.6%	93.9%
小5 中1	自分の名前を言うとき	76.7%	93.9%
小5	電話番号を尋ねる	82.8%	97.9%
小1	数字が0～9まで言える	100%	100%

「チャットバルーン」のよい点は？

- ・ 中学2・3年のものまでできたこと。
- ・ いろんな表現パターンがあったからよかった。
- ・ いろいろな電話の仕方や会話が書かれているからわかりやすい
- ・ 小中のもので1枚にまとめられているのでわかりやすかった。
- ・ 小学校の復習もできて、中学校の予習みたいにできてよかった
- ・ 小学校レベルと中学校レベルに分かれていてよかった。
- ・ 小学校の時のものも使われていて、中学校3年までのものができて得した気分

図7 チャットバルーンを活用した生徒の感想

【手だて2】小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を活用したなりきり名人

スキット作成において、なりきり名人活動前後の生徒作品から検証する。

【結果】

なりきり名人1回目～4回目はペア活動で、5回目は個人で行った。ここでは抽出生徒2組、本題材に入る前は表現活動にあまり積極的でなかったペアのスキット(表3)を取り上げる。

抽出生徒A・Bの1回目のなりきり名人では、「相手の状況を聞く→映画に誘う」から、4回目には、「クリスマスパーティーに誘う→時間の確認→プレゼントの連絡」をするなど、内容がより具体的になっている。

抽出生徒C・Dの1回目は、「相手呼び出す→バスケットボールに誘う」から、4回目には、「相手の状況を尋ねる→バスケットボールに誘う→場所を尋ねる」に変容し対話の完成度が高くなってきた。登場人物も自分の名前からトナカイやサンタ(架空の人物)になり、スキットもそれに合わせてクリスマスの内容へと変化してきた。また、5回目の個人のスキットでは、両ペアともさらに自由度がのび、対話の内容が充実し表現量が増えた。



スキット作成中

表3 なりきり名人抽出生徒作品

	1回目(ペア)	3回目(ペア)	4回目(ペア)	5回目(個人A)
抽出生徒A・B	<p>A: Hello. This is A. May I speak to B? E: Just a minute. A: What are you doing now? B: I'm watching TV. A: D, let's go see a movie. B: OK. What time? A: It's 1 o'clock.</p> <p>状況を聞く 映画に誘う 時間</p>	<p>A: Hello. This is A. May I speak to B? B: Speaking. A: Let's eat sushi. B: Okay. What time? A: How about 7 o'clock? B: Okay. What sushi do you like? A: I like salmon. B: Really? Me, too.</p> <p>寿司を食べに誘う、 時間・交渉 好みを聞く</p>	<p>A: Hello. This is A. May I speak to B? B: Speaking. A: Hi, B. Let's have a Christmas party. B: Okay. What time? A: It's 7 o'clock my home. Please bring some present. B: Oh, I see. See you later. A: Bye.</p> <p>クリスマスパーティーに誘う・ 時間・ 連絡(プレゼント)</p>	<p>A: Hello. This is Snoopy. May I speak to Anpanman? B: Speaking. Hi, Snoopy. A: Let's eat sushi. B: Sorry. I don't like sushi. Let's eat cake. A: Okay. What time? B: Anytime is OK. A: How about 3? B: Oh, I see. A: What cake do you like? B: I like chocolate cake. How about you? A: Really? I like chocolate cake, too. B: See you later. Bye. A: See you.</p> <p>寿司・ケーキを食べに誘う 時間・交渉 好みを聞く 自分以外の登場人物</p>

	1回目(ペア)	3回目(ペア)	4回目(ペア)	5回目(個人C)
抽出生徒C・D	<p>C: Hello. This is C. May I speak to D? F: Just a minute. D: Hello. This is D. C: Let's play basketball. D: Pardon? C: Let's play basketball. D: Okay. See you later. Bye.</p> <p>バスケットボールに誘う</p>	<p>C: Hello. This is ルイジ. May I speak to マリオ? F: Just a minute. D: Hi. This is マリオ C: What are you doing? D: I'm playing basketball.</p> <p>状況を尋ねる バスケットボールをしている</p>	<p>C: Hello. This is ルイジ. May I speak to マリオ? F: Just a minute. D: Hi. This is マリオ C: What are you doing? D: I'm watching TV. C: Let's play basketball. D: Where? C: at Shinto shin park. D: Okay. See you later. Bye. C: Bye.</p> <p>状況を尋ねる テレビを見ている バスケットボールに誘う、 場所を尋ねる</p>	<p>C: Hello. This is トナカイ. May I speak to サンタ? D: Hello. This is サンタ C: What are you doing? D: I'm drinking cocoa. C: What are you doing to do for Christmas? D: I deliver present. C: Okay. See you later. Bye. C: Bye.</p> <p>状況を尋ねる ココアを飲んでいる クリスマスの予定を尋ねる。 プレゼントを配る</p>

【考察】

生徒のなりきり名人作品から、パターンBの活用で、絵のあったパターンAよりも生徒の創造力及び表現力が高まってきたと捉える。

抽出生徒A・Bは、普段話すようなことを意識してスキット作成に取り組んでおり、3回目以降は、「自分の好きなもの」にも触れながら自己関連性の部分が増え、より日常的な対話に近づいてきている。また、個人の作品では、自由度が増し毎回異なる展開になっている。

抽出生徒C・Dは、何回も相手の状況を問うという同じ表現を用いているが、答え方においてその都度変化がみられた。4回目からは、さらに具体性が表れている。また、登場人物も架空の人物を使うようになり、辞書を活用してそれにあった表現をすることができた。

このように抽出ペアのスキット内容から、なりきり名人においてチャットバルーンを十分に活用し、表現内容がふくらんでいることがわかった。

抽出生徒を含め全体的に、「伝言を残す・本人不在・間違い電話」に関しては、活用したペアが少なかった。これらの状況を設定すると、対話がその時点で終わりそれ以上発展させることができないため、生徒はペア活動に選択しなかったと思われる。しかし、これらも日常的によくある状況なので、授業の中で取り上げて活動を促していきたい。



実際に電話機を使ってスキット発表

- ・なりきり名人は、自分たちでスキットを考へたり発表したりできるので楽しかった。
- ・英語で本当に電話ができそうだったと思った。

【手だて3】「書くこと」における事前・事後テスト

「書くこと」におけるテストを授業前後で行いそのテスト結果から、生徒のスキル面での変容について検証する。

テストの問題は、ワードオーダー(日本語と同じ意味になるように単語を並べかえて表現する)と、英作文(空欄になっている箇所に、自由に一文を加え、まとまった対話文を完成させる)である。問題はすべて電話に関する表現を中心に作成し10点満点のテストとして実施した。

【結果】

図8は、授業前後に行った「書くこと」におけるテストの結果である。ほぼ全員が事前テストよりも事後テストの点数が伸びており、平均点も5.7点から9.2点となった。また、人数分布から見ると事前テストでは、4～8点に人数が多かったのに対し、事後テストでは、9～10点の生徒が全体の8割となり、5点以下の生徒が0となった。

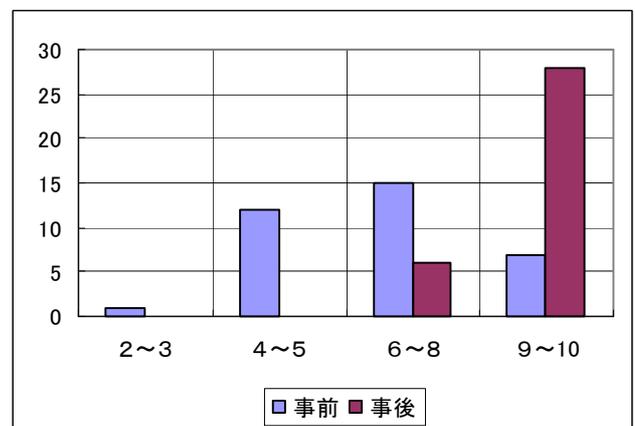


図8 「書くこと」におけるテストの結果

【考察】

ワードオーダー(語順)の設問における点数が伸びた理由としては、チャットバルーンを用いて対話練習をすることで正しい語順に慣れ、英文の構造を理解できたからと捉える。また、英作文の問いにおいては、事前テストで9名の生徒が無答だったのに対して、事後テストでは、全員が解答している。英作文の内容に関しては、生徒にとって身近な話題を取り上げたものが多かった。このことから、会話の内容全体を理解し、文脈の流れから空所に適した表現を使えるようになっていくことがわかる。これは、なりきり名人でスキットを作成することによる効果と捉える。

このように、小中9年間の言語材料を示した「チャットバルーン」の活用となりきり名人の活動を通して、生徒の「書くこと」におけるスキルが伸び、表現力が高まったと考える。

Ⅷ 研究成果と課題

1 成果

- (1) 小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を作成し活用することで、多様な場面(状況)設定ができ表現しようとする意欲が高まった。
- (2) 小中連携カリキュラム「チャットバルーン」を活用した、なりきり名人の指導を工夫することで、対話内容に広がりができ表現力を高めることができた。
- (3) スキット作成において書く力が向上した。

2 課題

- (1) 他の場面におけるチャットバルーンの作成及び改善
- (2) 語彙力、表現力を高めるためのドリル学習の工夫
- (3) ペア活動のみでなく他の活動形態におけるなりきり名人の工夫

《主な参考文献及び引用文献》

中学校学習指導要領 外国語編	文部科学省	東京書籍	2004
中学校指導要領の展開 外国語(英語)科編	平田和人編者	明治図書	2001
「自己表現活動」を取り入れた英語授業 個性・創造性を引き出す英語授業	田中武夫・田中知聡著 樋口忠彦 編者	大修館書店 研究社出版	2006 1995
英語多読ワーク40	青野保著	明治図書	2006
平成18年度前期研究報告	那覇市立教育研究所		2006
平成16年度小学校英語科指導計画	那覇市教育委員会		2004
平成17年度小学校英語科学習指導案例集	那覇市教育委員会		2005
TOTAL ENGLISH 1～3	学校図書株式会社		2005
NEW HORIZON 2～3	東京書籍株式会社		2005